

INSTRUCTION MANUAL

SAEC

WE-506/30

CONCEALED DOUBLE KNIFE EDGE PRECISION TONE ARM

AUDIO ENGINEERING CORP. JAPAN

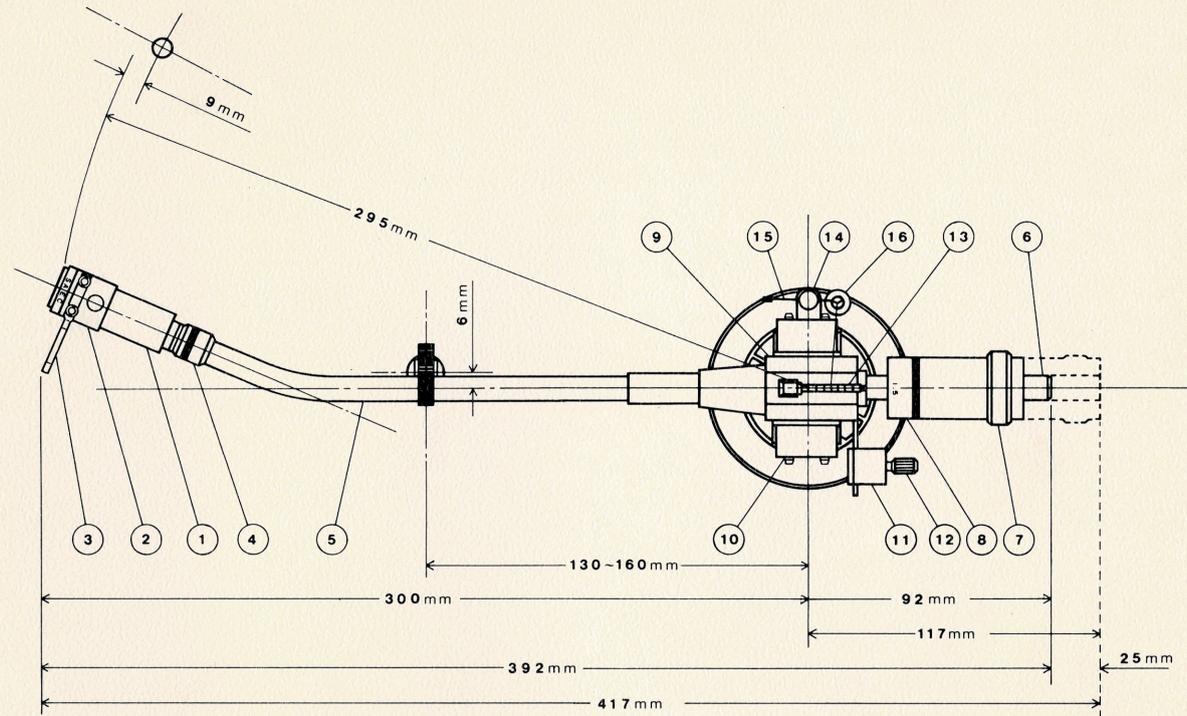
SAEC WE-506/30

この度は、SAEC WE-506/30をお買上げ頂きましてありがとうございました。広く世界のオーディオ界にSAECの名を知らしめた画期的な、トーンアームWE-308SXの基本的な特長と性能を兼ねそなえ、尚かつ放送局レコードスタジオのプロユース等の苛酷な使用条件にも、充分耐え得る様、更に完成度をたかめSAECの提唱する一連の理論に基づき完成されたものです。

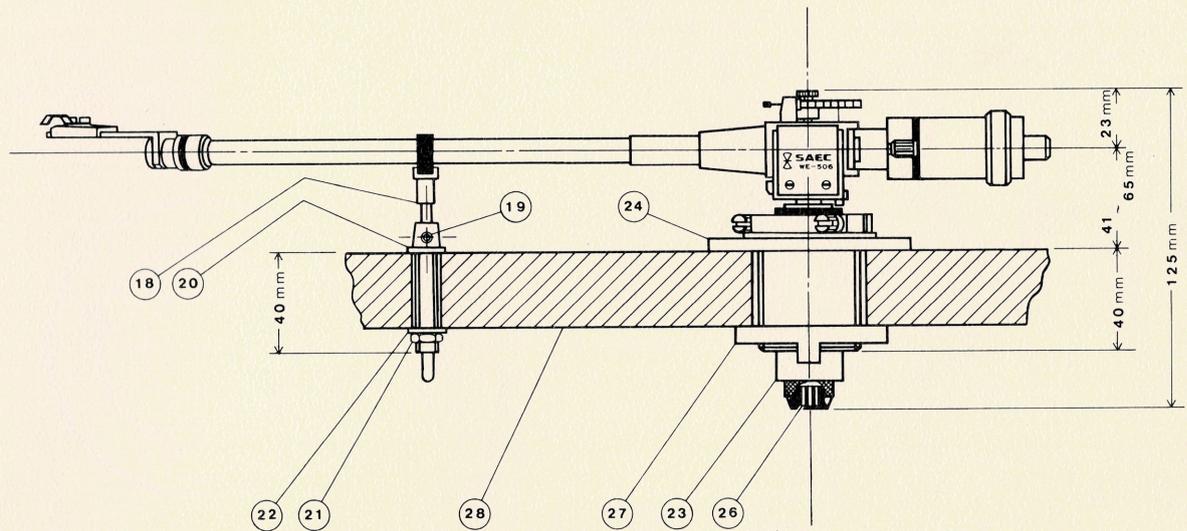
トーンアームによる、単なる音の違いではなく、再生音のコントラスト、ディテールをも追求した大変完成度の高いものです。

SAECの技術陣は、WE-506/30に至ってアームとしてなすべきことは全てなしたと考えて居り、深い満足と共に誇りと責任をもって「究極のアーム」をお届け致します。

AUDIO ENGINEERING CORP.
TOKYO



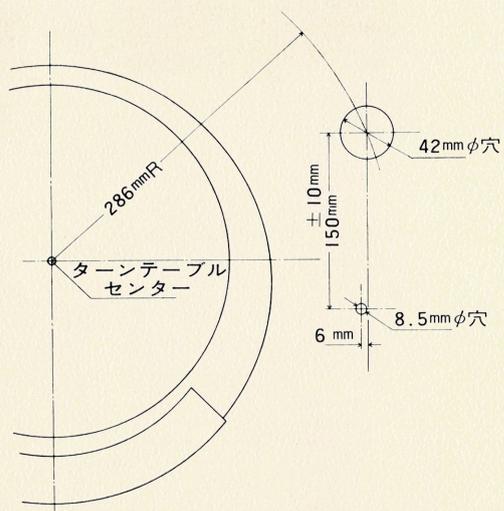
- 1 ヘッドシェル
- 2 カーソルプレート
- 3 指かけ
- 4 ジョイントネジ
- 5 アームパイプ
- 6 ウェートシャフト
- 7 メインウェート
- 8 カウンターリング
- 9 アームボディ
- 10 エッジカバー
- 11 ラテラルウェート
- 12 ラテラルスクリュー
- 13 キャンセラーバー
- 14 キャンセラー受調整ネジ
- 15 キャンセラー受
- 16 キャンセラーウェート
- 17 アーム高さ調整ネジ
- 18 アームレスト
- 19 レスト高さ調整ネジ
- 20 レストスタンド
- 21 レストスタンド取付ナット
- 22 レストスタンド取付ワッシャー
- 23 アーム回転軸
- 24 アームスタンド
- 25 アームスタンド締付金具
- 26 5Pコンセント
- 27 スタンドナット
- 28 取付ボード



注意 WE506/30にはP.U.コードは付属されておりません、お手持ちのカートリッジの内部インピーダンスにあったP.U.コードをお求め下さい。(P 10参照)

1. 取付

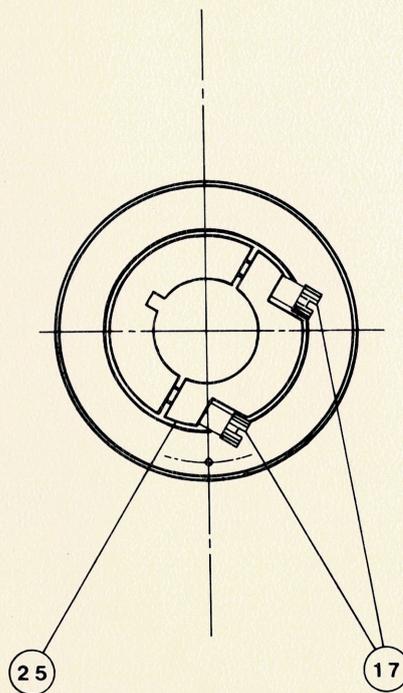
モーターボードに取付ける為に、先ず正確に寸法を計り、位置を決定して下さい。(第3図参照) 附属のアームマウンティングカードを御利用になると便利です。ターンテーブルセンターから286mmRの位置ですが、モーターボードに依ってはトーンアームのメインウェイトが一番後にさがった状態で、モーターボードの最後部にあたる事がありますから注意して下さい。



(第3図)

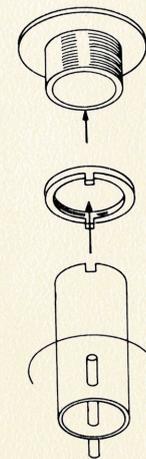
位置が決定しましたら、このセンターに、アームレスト位置決定図をのせて、一番良い所にアームレスト穴位置を決定して下さい。

2ヶ所の位置が決定したら寸法に従って穴をあけて下さい。モーターボードの厚さは、約35mm位のものまで取付可能です。



(第4図)

次にアームスタンドを取り出しアームスタンドの赤印を正面に向けて第4図の通り順序良く取り付けて下さい。最後に附属のナット廻しを使って確実に締めて下さい。(第5図参照)



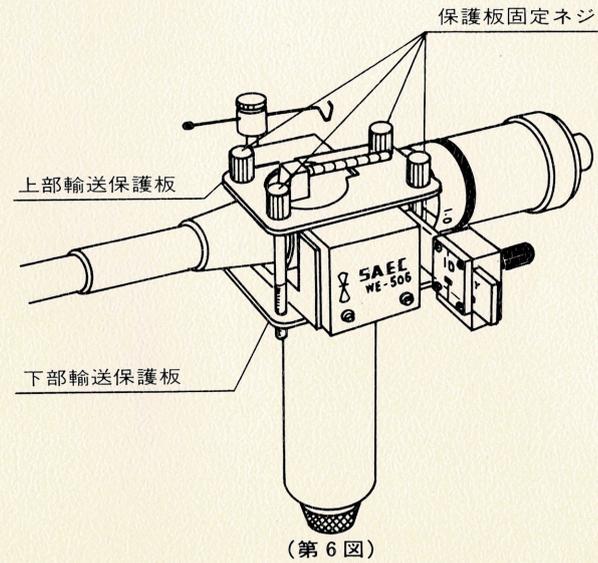
(第5図)

次にトーンアームを取出し、輸送用保護板を取りはずします。(第6図参照)

輸送用保護板は4本のネジで固定されて居りますので、この4本のネジをはずしますと保護板を取る事が出来ます。

輸送用保護板は一括して他に保管し、トーンアームの単体移動の際この保護板をお取付けになる事をおすすめします。

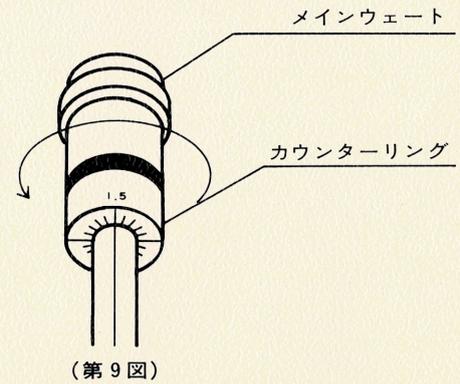
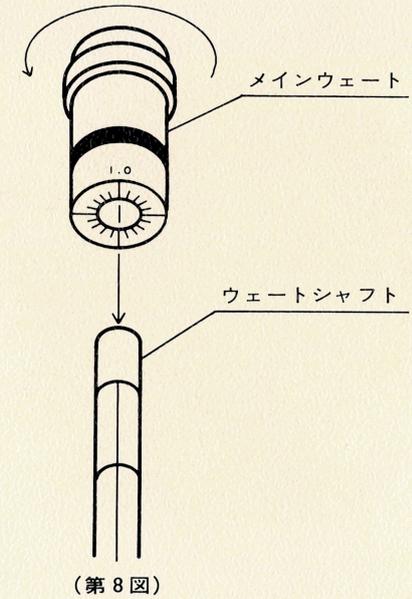
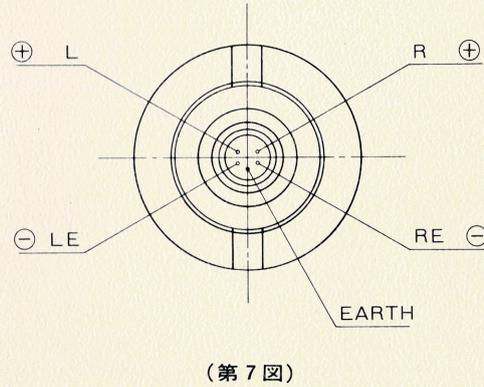
次にカートリッジインピーダンス別のP.U.コードの5Pコンセント部を、アームスタンドの中を通して、アーム本体と確実に接続して下さい。



次にアーム本体をアームスタンドに差込み、高さ調整ネジを仮締めして下さい。

P.U.出力コードをアンプに指定通りL.R.を確実に接続し、アンプのアース端子にアース線を接続して下さい。P.U.コードの接続は第7図の通りです。

次に付属のメインウェートを装着して下さい(第8図参照)メインウェートを回転させる事に依って、ウェートシャフトの突起がウェートのガイドにはまり込みますから(第9図参照)あとはスムーズに回転し前後に移動出来ます。



2. 調

整

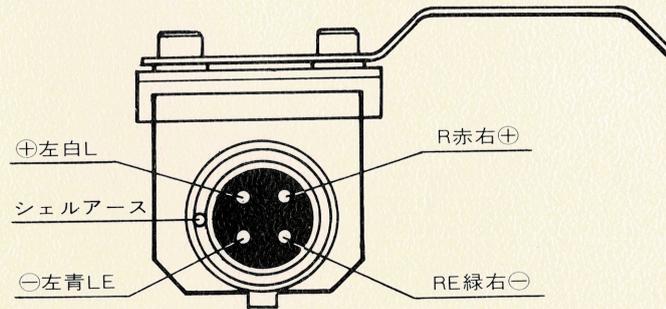
(a) カートリッジの取付

WE-506/30に付属されて居りますヘッドシェルは、SAECの技術陣が長年研究し開発致しました新素材、高純度(99.7%以上)の酸化アルミニウムの焼結多結晶体を、新しく開発された研磨法で精密に仕上げた、ソリッドタイプのヘッドシェルです。超硬度、超高密度の新素材による剛性は、従来のヘッドシェルの20倍(当社比)以上もあります。お手持のカートリッジの性能を100%引出す事の出来る唯一のヘッドシェルと申せましょう。

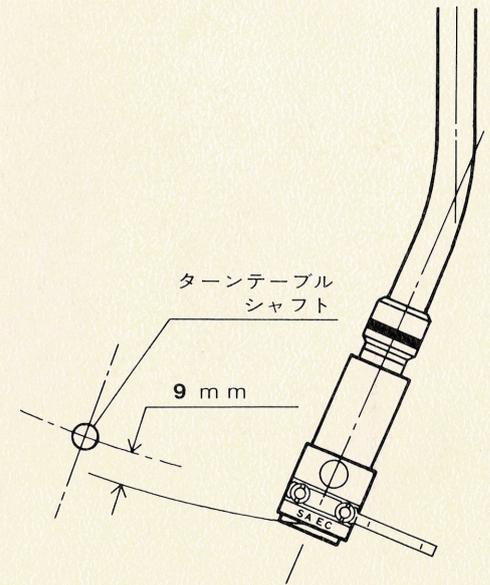
先ず付属のヘッドシェルには、アクリルのダミーヘッドがついて居りますから、取付ネジをゆるめてこのダミーヘッドを取りはずして下さい。次にカートリッジの取付けを行う場合、カートリッジメーカーによっては、ターミナルチップの太さが異なりますから、ターミナルに合わない場合は、カートリッジ指定のターミナルチップに交換して下さい。この際カートリッジのターミナルに直接半田付けする事は絶対に避けて下さい。リード線はJIS規格によってL.R.等色分けされて居ります(第10図参照)接続を間違えますと位相が逆になるばかりでなく、音が出ない場合もありますから確実に接続を行って下さい。但し規格外の製品や旧型のカートリッジでは、この規格に合わない場合もありますから良く確認して下さい。WE-506/30は、カートリッジの自重が5g~15

g迄のものに使用出来る様に設計されております。(ヘッドシェルの自重は18g)
WE-506/30は、オーバーハング9mmに設計されて居りますから、これに依ってカートリッジを固定して下さい。オーバーハングとは、針先とアーム回転軸中心とを結ぶ直線が、ターンテーブルの中心を通る時の針先からターンテーブルの中心までの水平距離

を云います。(第11図参照)簡単に調整する方法として、ターンテーブル・センタースピンドルの上にカートリッジをのせて、ターンテーブルセンターから針先が空間で約8mm出る様に調整して下さい。(レコード盤にのせた時に9mmになるためです)この時に極少の誤差が出ますが、ほぼ満足出来る寸法となります。



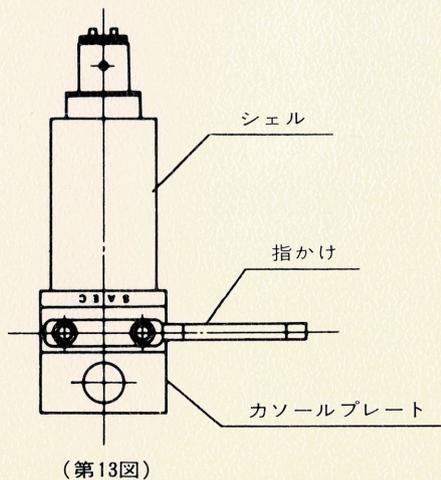
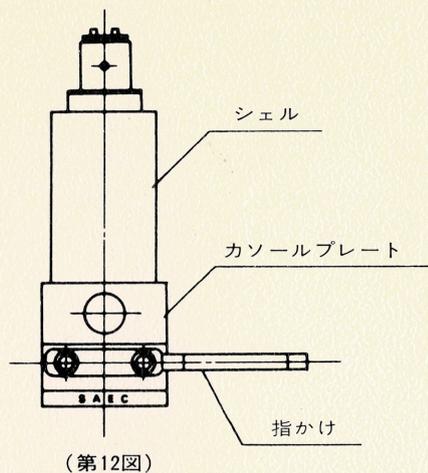
(第10図)



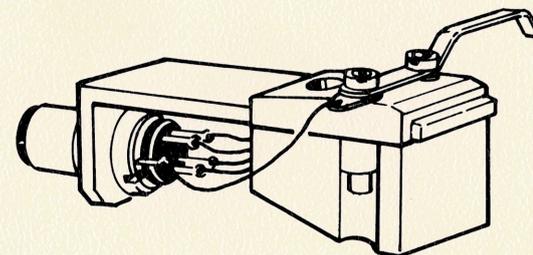
(第11図)

尚カートリッジの形状によってはシェルとカーソルプレートとの位置関係の姿が悪くなる場合があります。この時は第12図・第13図の通りカーソルプレートを逆に取付けて下さい。

又、お手持のカートリッジが軽自重で、バランスがとれない場合は、附属のH型のウェイトをシェルとカーソルプレートの間にはさんでお取付け下さい。



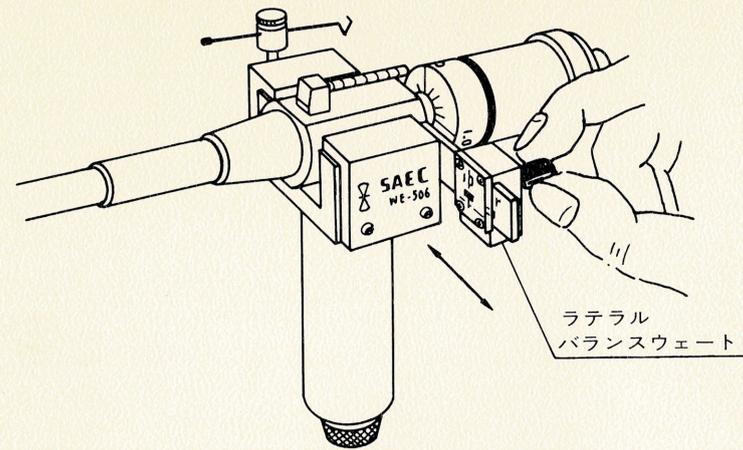
シェルとカートリッジの間に取付ける事は絶対にさけて下さい。音質が悪くなるばかりでなく、シェルの特性を充分発揮する事が出来ません。又、お手持のカートリッジによっては、アースを必要とする場合がありますので附属のアース線をアースターミナルに接続し片側のラグ端子を指かけの下部に取付けて下さい。(第14図参照)



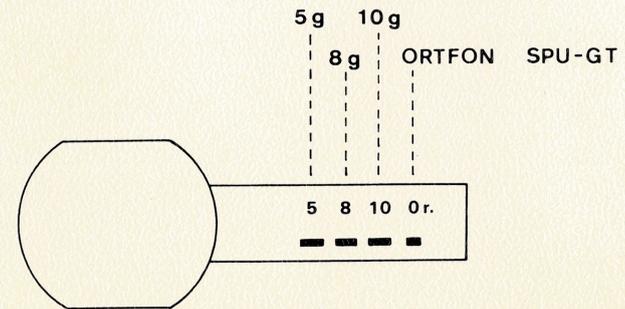
(第14図)

(b) ラテラルバランスの調整

WE-506/30は、J型トーンアームですからカートリッジを交換すると、ラテラルの調整を行わなければなりません。WE-506/30は、カートリッジの自重によってラテラルウェイトをカートリッジ自重の目盛に合わせて下さい。(第15図、第16図参照) 普通の使用状態では概略の目盛に合わせて頂ければ結構です。これに依るトーンアームの性能及び音質の劣化はありません。(但しこの目盛はあくまでも、附属のアルミナシエルを使用の場合に限ります。)



(第15図)

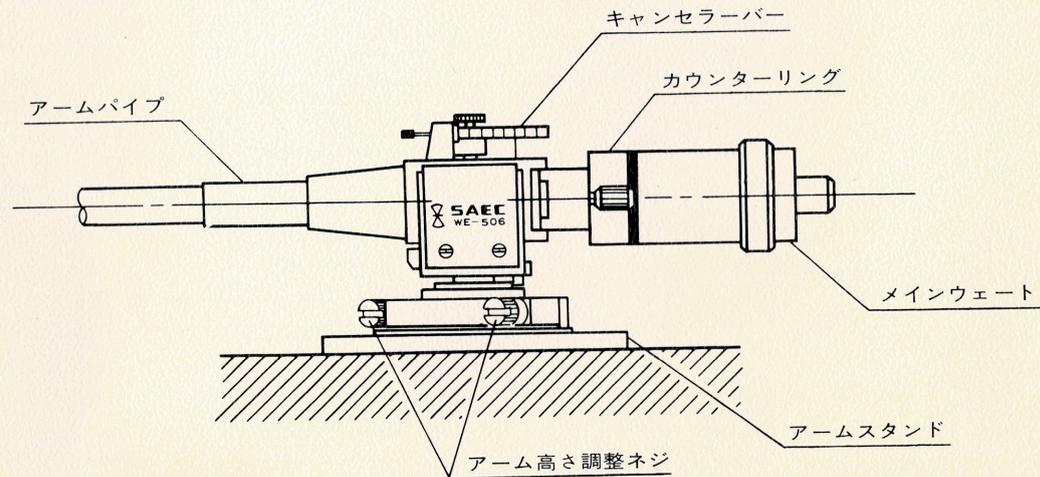


(第16図)

(c) トーンアーム高さ調整

ターンテーブルにレコードを乗せた状態で、トーンアームが水平になる様に高さ調整ネジをゆるめて調整して下さい。水平になる様に調整出来ましたら、アーム高さ調整ネジを確実に締めて固定して下さい。

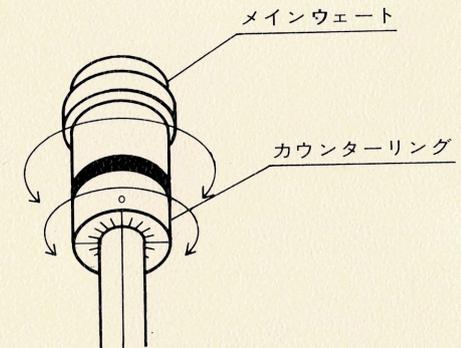
(第17図参照) WE-506/30は、アーム固定に新方式の締具で高さ調整も兼ねて居りますが、片側のネジをある程度締めてもう一方のネジをゆるめると簡単に操作が行えます。



(第17図)

(d) 針圧調整

メインウェートを左右どちらかに回転する事によって、トーンアームの水平バランスをとる事が出来ますので、水平バランスがとれた所でカウンターリングを回して針圧目盛を0の位置にして下さい。(第18図参照)

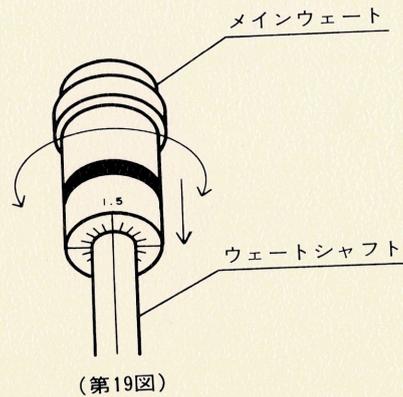


(第18図)

メインウェイトとカウンターリングは別個に動きま
すから、この時はメインウェイトに関係なくカウン
ターリングのみ廻して下さい。これで0バランスが
とれたわけです。次にご使用のカートリッジの適正
針圧に合わせて、メインウェイトを右回転させて針
圧をかけて下さい。この時にカウンターリングだけ
を廻しても針圧はかわりませんのでご注意下さい。

(第19図参照)

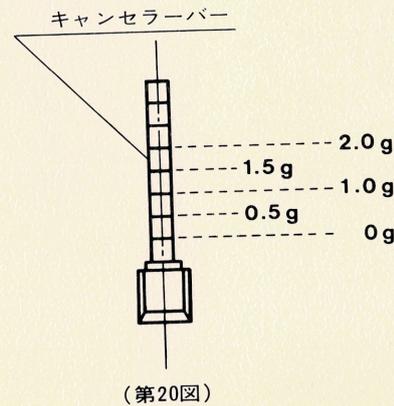
針圧目盛は1目盛0.1gで、メインウェイトを1回転
させて2gになる様に設計されて居ります。(2回
転で4gになります。)



(e) インサイドフォースキャンセラー (アンチスケーティング) 調整

WE-506/30には理想的なインサイドフォースキャン
セラーが採用されて居ります。インサイドフォース
キャンセラーは、正確な動作が可能な糸掛方式で、
その糸掛点は水平回転軸の中心を見通せる点(0点)
を通って居りますので、0gより直線的に調整出来
ます。(第20図参照) 先ず附属のキャンセラーウェ
イトにつながつたキャンセラー糸の輪をキャンセラー
バーに掛け、キャンセラー受を通してウェイトを吊
り下げます。

一番手前の溝が針圧0gですから、カートリッジの
適正針圧に対応して所定の位置に糸を移動させて下
さい。次に30cmレコードの最外周溝に針先が位置す
る所でキャンセラーバーに対し、キャンセラー糸が

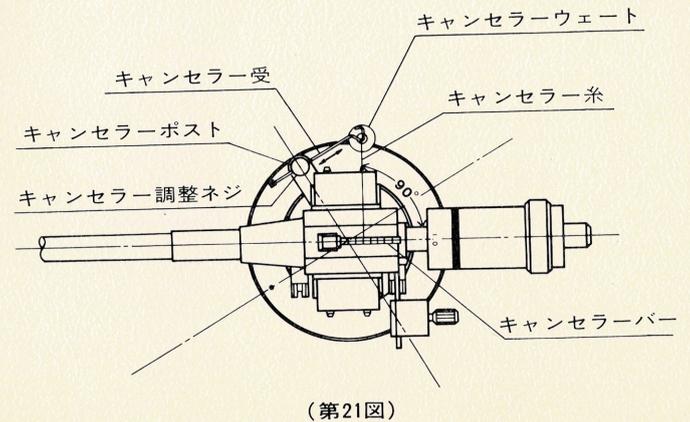


直角(90°)になる様にキャンセラーポストの調整ネ
ジをゆるめて、キャンセラー受を動して調整して下
さい。(第21図参照)

この時にキャンセラーウェイトの自重でキャンセラ
ー受が自由な角度で止まりますのでそこで固定して
下さい。

WE-506/30に採用されて居りますインサイドフォ
ースキャンセラー機構は、自動針圧微増装置を兼ねて
居りますので、レコードの内周に針先が移動すると
同時に針圧が自動的に補正されて、常にレコードに
対するトレーシングを安定させて居ります。(最内
周で0.2g針圧が増す様になって居ります。)

インサイドフォースの糸掛は中間針圧の場合少ない
方に掛けて下さい。



P.U.出力コードその他の御注意

WE-506/30には、P.U.出力コードは付属されて居りません。これはかねてより当社の提唱する、使用カートリッジの内部インピーダンスに合わせたP.U.出力コードでマッチングし、音質の保証を致して居りますので、お手持のカートリッジに合った、P.U.出力コードのご使用をお奨め致します。

タイプ別コードの内訳

M.M.カートリッジ用 CX-8003

4chを除くM.M.カートリッジに適合。
¥ 3,000-

M.C.カートリッジ用 A TYPE CX-5006A

カートリッジの内部インピーダンスが20~120Ω程度の中高出力タイプのカートリッジに適合。
¥ 4,600-

M.C.カートリッジ用 B TYPE CX-5006B

カートリッジの内部インピーダンスが1.5~10Ω程度の低出力タイプのカートリッジに適合。
¥ 5,500-

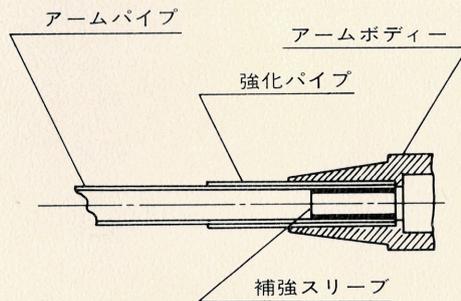
- ※ P.U.コードとスピーカーコードは出来る限り近接させないで下さい。場合に依っては発振等有害な事がありますのでご注意下さい。
- ※ アーム内部の配線については、SAEC全製品に音質劣化対策処理が施されて居りますので、銀線

等にお取替えになる必要は全くありません。尚敢えてお取替え等なされますとアフターサービス等出来なくなる場合もありますから御注意下さい。

WE-506/30は、ソリッドなトーンアームです。トーンアームの取付部は可能な限り堅く重い物、例えば、15mm以上ある鉄板等は音質にその効果を発揮致します。

又、ターンテーブルシートにつきましては、当社にて別売致しておりますソリッドターンテーブルシートSS-300の併用をお奨め致します。その効果は驚く程のものが有ります。

WE-506/30のアームパイプは、フランスの航究技術が生んだ特殊軽合金で、その固さは焼入れ鋼に匹敵し、その比重は通常ジュラルミンと同等でしかもその接合部は第22図の通り、四重ホールド式とその剛性は完璧であります。



(第22図)

以上の通り理論に基く使用器材、及びその使用方法に依りダイナミックレンジの大きな、クリアーでかつ立上りの良い音楽再生を楽しむ事が出来ます。

テクニカルデータ

型式=ダブルナイフエッジスタティックバランス、
ユニバーサル型

全長=最大417mm

有効長=295mm

オーバーハング=9mm

トラッキングエラー=内周にて0度

オフセットアングル=15度

ラテラルバランス=直読調整目盛付スライドバランス方式

針圧調整範囲=0~4g(2回転)直読式

適合カートリッジ重量=5~15g

取付穴直径=42mm(軸径40mm)

アーム取付方式=ナット締め(アームスタビライザー使用可)AS-600E

ヘッドシェル=ULS-3X(18g)

P.U.コード=別売

外觀仕様等は改良の為予告なく変更する事があります。取扱説明書で所定の調整個所以外の内部機構等に関するネジ等は、絶対にはずさない様に御注意下さい。

オーディオエンジニアリング株式会社

東京都大田区大森北3-12-3 第2後藤ビル

電話 03(765)5505 (代表)